



第41回
聴覚障害児を育てた
お母さんをたたえる会
開会式での山東会長の式辞

第四十一回聴覚障害児を育てた お母さんをたたえる会

75 会報

響き日

発行所 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11
福祉財団ビル5F
TEL 03-69907125
FAX 03-69907225
03-69907295
03-69907137
発行人 山東 昭子 編集人 櫻井 博
(題字 山東昭子会長)

平成三十一年一月二十一日(月)憲政記念館において第四十一回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会を開催いたしました。今回は全国都道府県より推薦された六十一名のお母さん・お父さんが表彰されました。ご家族と共に来場して表彰を受けられたお母さん方は二十三名でした。

十二年連続してご臨席いただいた秋篠宮妃殿下から、開会式の中でお言葉を賜りました。また、式典後には、秋篠宮妃殿下と被表彰者などで懇談が行われ、その後表彰されたお母さん方やその他の被表彰者、そのご家族の方とで記念撮影が行われました。

幸い天候にも恵まれ、滞りなく実施することができました。例年通り多くのボランティアの皆さんに支えられ、温かい感謝の気持ちに包まれた行事として開催できました。有難うございました。

秋篠宮妃殿下のお言葉

「第四十一回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」の開催に当たり、全国からお集まりの皆さまとお会いできましたことを大変嬉しく思います。

本日は、最初に、聴覚障害児を育てたお母さま方への表彰がございました。この表彰は昭和五十三年に始まり、今日までに八千五百名以上の方が表彰されました。

近年、補聴機器や情報通信などを含む科学技術の進展や、手話言語に対する理解の広がりにより、聴覚に障害のある子どもたちを取りまく環境は、大きく変化しております。そうした中、子どもたちが、コミュニケーションの力を伸ばし、社会で生きていく力をつけるためには、様々な課題があると伺っております。皆さまには、お子様が言葉を学び、自分らしく生きていけるよう、心を配り、努力や工夫を重ねてこられたことと思います。困難に直面し、不安を感じたこともあったでしょう。その中で、希望をもってお子さまを立派に育てられましたことに、深く敬意を表します。

続いて、社会貢献の著しい聴覚障害者への表彰がござ



お言葉を述べられる
秋篠宮妃殿下

祝 辞

文部科学大臣政務官 中村 裕之



本日ここに、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、「第四十一回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

はじめに、本日受賞されますお母様方に対し、心からお祝い申し上げます。また、お母様方がこれまで様々な場面で直面されてきたであろう並々ならぬ御苦労ごと、お子様に対する深い愛情と御献身に對しまして、心から敬意を表します。

文部科学省におきましては、子供たち一人一人の自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導や支援を行うことができるよう、教職員の専門性の向上、教育環境の整備、障害のある子供に対する様々な合理的配慮の一層の充実等に精力的に取り組んでいるところです。また、障害のある方々が、その生涯を通じて、自らの可能性を追求できる環境を整え、

います。今回の受賞者は、幼いころから画家になりたいという夢を持ち続けて、夢を実現した方です。現在は洋画家として活躍され、また、障害者理解のための啓発活動を幅広く進めていらっしゃることを、心強く思っています。

そして、「第十四回全国豊学校作文コンクール」の金賞受賞者の表彰がございました。今年も、数多くの小学生、中学生、高校生が経験したことや考えたことを自分の言葉で書き表してくれました。この度受賞される方々を始め、作品を寄せてくださった方々が、これからますます言葉の力を伸ばしていくことを期待しております。表彰を受けられる皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

聴覚障害に関わる分野で尽力されている方々に感謝の意を表しますと共に、聴覚障害に対する理解がさらに深まり、皆が安心して豊かに暮らせる社会が築かれます事を願い、大会に寄せる言葉といたします。

地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、学習やスポーツ、文化等の様々な機会に親しむための関係施策を横断的かつ総合的に推進し、共生社会の実現に向けて、省を挙げて取り組んでおります。今後とも、教育、文化、スポーツ等のあらゆる分野において、障害のある方々への支援を充実していくとともに、子供やその保護者の方々などの気持ちに寄り添った支援の在り方についても真摯に考えていく所存です。御参会の皆様方におかれましては、こうした教育分野における取組について、今後とも格別の御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、この意義深い表彰事業を実施されておられます公益財団法人聴覚障害者福祉協会の一層の御発展と、本日御参会の皆様方のますますの御健勝と御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

厚生労働大臣政務官 新谷 正義



本日、ここに秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、公益財団法人聴覚障害者福祉協会が主催される「第四十一回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。はじめに、本日表彰を受けられる方々に対し、心からお祝い申し上げます。また、聴覚障害のあるお子さんを日々支えてこられたお母様やご家族の皆様は、心から敬意を表します。特に、お母様方におかれましては、ご家族の皆さまとともに、お子さんへの支援や、障害児支援サービスの利用、学校卒業後の進路選択など、喜びだけでなく、大変な御苦労もあったと思います。

また、この「たたえる会」は四十年を超えて開催されてきておりますが、これからも、こうした機会を通じて、お母様方が、お子さんの成長に寄り添っていかれることを応援するとともに、聴覚障害のある方々の教育や福祉について、幅広く国民の理解が深まってい

くことを期待しています。

厚生労働省では、近年、様々な制度改正を行い、障害のある方々の支援の充実に取り組んでいます。

昨年の四月に行われた障害福祉サービス等の報酬改定では、児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所において、言語聴覚士を配置して支援をした場合の加算の報酬を引き上げるなど、聴覚障害児に対する支援の充実を図っております。また、聴覚障害のある方への支援としては、障害者総合支援法の意思疎通支援事業等により、手話通訳者や要約筆記者といった、意思疎通をサポートする人材の派遣や養成などに取り組んでおります。更に、今年度開始した第四次障害者基本計画においては、意思疎通支援を行う人材の育成・確保を図り、コミュニケーション支援の拡充を目指しております。聴覚に障害のある方が一人で電話を掛けられるよう、手話通訳や文字通訳に対応するオペレーターを配置する電話リレーサービスの提供体制を充実することとしております。

今後とも、関係する皆様の御意見を十分にお伺いしながら、聴覚障害のある方々への情報支援やコミュニケーション支援等の充実に取り組みたいと考えています。引き続き、御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、この度表彰を受けられました皆様の今後の一層の御活躍と、山東昭子会長をはじめとする聴覚障害者福祉協会の皆様の益々の御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

〇〇 お母さんの体験発表 〇〇

障害のある娘と生きてきて

長野県 山本 重子

私がろう学校が存在を知ったのは由貴葉が生まれてからでした。

妊娠四ヶ月目に入った頃、顔が真っ赤になり、熱も出てきました。どうしたのだらうと思い、病院に行きました。診てもらった結果、「風疹に罹っています。」と先生



お母さんの体験発表

に言われました。そして、「もし、子どもが生まれても、目、耳、心臓のどこかに障がいが出ますが、どうしますか。」と言われました。私は、すぐに、「産みます。」「一度流産しているし、せっかく授かった命です。どこに障がいが出ようと私は育てます。」と答えました。

その後、生まれるまでの間に、私の祖父の具合が悪くなり、車で行くと三十分程の距離を何度も何度も往復しました。しかし、祖父は亡くなり、お葬式の忙しさから、お産が早まり、予定日より二週間早く帝王切開で産むことになりました。生まれたのは、小さな赤ちゃんで、体重は2184gでした。ところが、生まれた産院は、未熟児を入院させておく設備がありませんでした。生まれた子は、その夜のうちに総合病院に移されました。転院前、産院では、「お母さんと会わずに転院するのはかわいそうだから」と、保育器のまま私のいる病室まで子どもを連れてきてくれました。私は初めて我が子を見て涙が出ました。

総合病院では、お腹にいる時、風疹にかかったということで、隔離されました。子どもは自力でミルクを飲むことができませんでした。小さな顔の鼻からチューブでミルクを飲んでいたので、私は毎日母乳を絞って届けてました。

我が子を抱っこできたのは、それから三週間ぐらい後で、「母乳を直接あげてみてください。」と言われて、やってみましたが、母乳を吸う力が弱く、飲むことはできませんでした。また、入院中に脳波を使って検査をしたところ、「耳が聞こえていないようです。脳に石灰化があります。」と言われました。私は、産院の先生がいったように、障がいが出たんだ。」と思いました。

退院後も定期的に通院し、脳波、CTなどの検査をして、ハイハイができるようになった頃、足の運びが悪いので、リハビリの先生に「この病院から出た耳鼻科の先生が近くで開業しているので、そこに行ってみたらどうですか。」と言われました。一歳十ヶ月頃、その病院に

行き、検査してもらいました。それでも、「やはり、難聴です。ろう学校に相談したらどうですか。」と長野ろう学校を紹介してもらって、教育相談に行きました。

長野まで、片道約一時間半の道のりを母子教室に週三日通いました。個別指導やグループ活動と楽しいことがいっぱい、言葉も少しずつ出るようになりました。幼稚園に入り、週の前半はろう学校、後半は地元の保育園に通うようになりました。

地元の保育園の入園式の日には教室で由貴葉のことを話し、先生や親御さん達に聴覚障がいを知ってもらいました。保育園に行き始めの頃、朝離れる時は泣いて追いかけてようとする我が子を、後ろ髪をひかれる思いで置いてきたことを思い出します。幼稚園も終わり、小学校をどうするかという話題になり、由貴葉を含め同級生八名のうち七名がインテグレーションをしました。小学校では、四年生から入れる吹奏楽部に入部し、アルトホルンを吹いていました。ろう学校には、年数回、土曜日にインテグレーションした子ども達が集まって交流する「きこえの教室」があったので、長野まで通いました。

中学校では、パソコン同好会に入部し、パソコンで絵を描いたり、ホームページ作成や検定を受けたりしていました。一年生の終わりの頃、由貴葉が「ろう学校に戻りたい」と言い出しました。私は、理由も聞かずに「卒業まではなんとか我慢して」と言ってしまうました。由貴葉には、ずいぶん辛い思いをさせたことだろうと思います。三年生になって、進路選択の際、普通高校に行けばさらに人数が増えて、中学でも授業についていくのがやっとだったので、今以上に大変になるだろうと考え、「ろう学校の選択もあるよ。」と話しました。すると、由貴葉は「そっちに行く。」と長野ろう学校高等部に進学しました。

高等部では、三名の同級生と共に学びました。卓球部にも入りました。ところが、部活で足を捻挫してしまい、通学が大変になって寄宿舎に泊まったのをきつかけに、寄宿舎にもお世話になりました。月曜日から金曜日までは寄宿舎に入り、金曜日に帰ってきて月曜日に最寄りの駅まで送るという生活になりました。二年生の時には、生徒会の副会長、卓球部の副部長、三年生の時には生徒会長、卓球部の副部長をやらせてもらいました。充

実した高等部生活を過ごさせていただきました。

高等部卒業後、別のろう学校の専攻科に入学し、パソコンを使ってデザインの勉強をしました。現場実習では一年生の時にケーブルテレビ局、二年生の時に、地元の会社に行きました。部活は卓球部に入りました。二年生の時には最初で最後の経験として、仙台まで卓球の全国大会に行きました。私も由貴葉の祖父と一緒に応援に行きました。

専攻科卒業後は、進路を決めるのが遅かったため、派遣会社に入社し、二年生の時の実習先の会社で仕事をしていたのですが、リーマンショックの影響で派遣会社が倒産してしまい、八十人ほどのパートさん、派遣社員が解雇となってしまいました。幸い、障害者雇用でそのまま残れることになり、派遣会社からその会社へ転籍し、八年間勤めました。

今は、その会社を辞め、別の派遣会社に登録し、釣銭機製造の会社で働いています。今の会社には、聴覚障がいの方と手話のできる方がいて、楽しい毎日を送っています。

長野ろう学校の高等部を卒業する時に「東北信聴覚障害者親の会」があることを知り、私は親の会に加入し、総会や「七夕会」に参加するようになりました。

「七夕会」とは、二十年前に卒業した方のお母さんが悩みを相談する場所があったらしいなということで作られた会です。それを立ち上げた日が七夕の日だったというので、「七夕会」という名前がついたそうです。「七夕会」ができたころ、親の会を運営していく資金が乏しくなり、話し合った結果、学校祭で親の会のバザーをはじめました。その親の会のバザーは今も続いています。立ち上げていただいたお母さん方に感謝しています。「親の会」がある学校が少なくなっていると思います。私は長野ろう学校には、親の頼れる場所があつてほしいと思います。これからできる限り協力したいと思っています。

障がいのある娘と三十年あまり、いつも娘の成長を願って生きてきました。しかし、うまくいかなくて幾度となく落ち込んだ日もありました。そのたびに、悩みを相談し、愚痴を聞いてもらって、大勢の方に励まされました。また、落ち込んだ時でも娘の笑顔を見ると救われ

る気持ちになりました。私は、少し足が悪いのですが、ろう学校に行くとき、親の会の活動に行くとき、必ず娘がそばにいてくれました。荷物を持ってくれたりして、私を気遣ってくれます。辛い思いをした分、娘は気持ちの優しい娘に育ってくれました。

娘を育てていただいた大勢の皆様から感謝しています。娘と共に、私も大勢の人に支えていただきました。あきらめなければ必ず明るい未来が来ると信じていることができました。これからも、いろいろな人との出会いに感謝して生きていきたいと思っています。

●第四十一回聴覚障害児を育てた

お母さんをたたえる会受賞者

【北海道】 鈴木津加早、横手さおり、竹田美佐子

鈴木純、山本陽子、森部強、田中真実子

伊藤雅暢

【青森】 小田切英恵、田中恵

【秋田】 坂藤佳代、花田順子

【福島】 越前睦子

【茨城】 古内純子

【栃木】 下城史江

【群馬】 小柏美知代、杉山玲子、星野愛子、唐澤千賀子

【埼玉】 中野直勝、田畑光司

【千葉】 棚橋かおる、峯美紀、村木玲子、大垣則子

林崎美佐子

【東京】 原島美紀、大野由香、野田洋子、斎藤桂子

山口香代

【神奈川】 鈴木みほ

【新潟】 山内朝子、櫻井朋子

【山梨】 須田美恵

【長野】 山本重子、小林通子

【岐阜】 小川ひろみ

【静岡】 北条眞美子、後藤久美子、森マチ子

小川志岐子

【愛知】 矢島実千代、内村美和、倉橋美紀

【兵庫】 岩根芳美

【高知】濱口幸代、武吉恵理奈
 【福岡】白垣妙子、津田紀子
 【佐賀】伊藤加代子
 【大分】向江真奈美
 【鹿児島】外園さつき

●全国聾学校作文コンクール審査講評

審査委員長 齋藤 佐和

全国聾学校作文コンクールは本年度、第十四回目となり、本日、秋篠宮妃殿下の御臨席を賜り、表彰式ならびに入賞作品の発表が行われますことは、入賞者にとりまして、本コンクールに取りまして、誠に光栄なことであり、深く感謝申し上げます。今回は、三十六校から百七十一編が集まり、入賞十五編、努力賞九編、佳作十五編が決定しました。日記部門には十一編の作品が寄せられました。本コンクールのテーマは「自然や人とのつながりの中で自分に焦点をあてたもの」です。今年も、子どもたちの興味関心の変化と書く力の成長について、小学部から高等部までの作品が多くのこと教えてくれました。

日記部門は、絵と一体化した絵日記、文だけで独立した日記の両方を含めています。聾学校小学部低学年はその転換期で、絵は選んだテーマを支えてくれますが、やがて絵がなくても書きたいことが頭の中で保たれるようになっていくでしょう。一日の経験を振り返り、ある経験を選んで書く習慣が書く力の基礎になるものと思います。絵日記、日記は聾学校の言語教育の伝統の一つであり、これからも大切にしたいと思っています。

小学部の作文は、家族のこと、学校での経験について書いたものが多いのですが、その中で、鈴木元太君の「御朱印巡りと出会って」は、お寺や神社に興味をもったきっかけから御朱印巡りでさらに広がっていった世界について、丁寧に書かれている優れた作文でした。六年生としての視点や考え方の成長を感じさせる作品として高い評価を受け、金賞、文部科学大臣賞に輝きました。

中学部では、自分の体験を述べ、そこでどのように感じたか、考えてきたかを書く作品が多くなり、書くべき

テーマがはっきりしてきます。金賞となった渡辺彩愛さんの「宣言」は、居住地交流の中で、勇気を出し一歩踏み出し自ら関わりを開いたことが述べられ、これからもそうしたいと宣言する結びになっています。揺れ動きながら前向きにまとまっていく思いが良く伝わり、金賞、聴覚障害者教育福祉協会会長賞受賞となりました。

高等部では、経験を出発点にしつつ、そこで自分はどう考えるかを述べていく作品が多くなり、表現力や構成力も伸びてくるため、書き進むことでテーマがさらに深まっていくことが感じられます。金賞、聾学校校長会会長賞受賞の伊東碧海さんの「主体的に」は、スマートフォン依存への心配から読書を再開したことで、読書がことばを育てることを改めて認識しています。新しい機器の役割を認めつつ、読書の意味と楽しさを主体的に捉え直して高い評価を受けました。

毎年、入選作品集と応募全作品の分析結果をまとめた小冊子を、毎年、全国各聾学校に還元しています。それらを通じて、本コンクールがこれからも聾学校の子どもの書く意欲、書く力の育成につながり、また日本語の力を育てる聴覚障害者教育の専門性の継承に貢献できることを願って、審査講評を終わります。

作文コンクール金賞受賞者表彰式



作文コンクール
金賞受賞者
鈴木元太さんと
渡辺彩愛さん

(伊東碧海さんは欠席)

全国聾学校作文コンクール文部科学大臣賞受賞作品発表

御朱印巡りと出会って

愛知県立千種聾学校

小学部六年 鈴木 元太

今、仏像や寺、神社のことが頭からはなれない。ひまがあると、御朱印帳をながめたり、これまでに出かけた寺や神社、そこで出会った人たちのことを思い出したりして過ごしている。

こんな風に寺や神社に興味をもったきっかけは、ある一つの寺に行ったことである。

ぼくが四年のころ、祖父が亡くなった。その祖父のお骨を納めに、京都のある寺に行った。その寺の本堂の前に立ったとき、まず大きさに圧倒された。そして、中に入ったときのふん囲気。おごそかなふん囲気に、ぼくは心をうばわれた。

その後、愛知に帰ってきてからも、あの景色が忘れられなかった。そして、他の寺はどうなっているのだろうか、もつといういろいろな寺を見たいと思うようになった。こうして、ぼくは寺に興味をもつようになった。その後は、家族で旅行に行く度に、行く先々にある寺に行くようになった。そして、ほどなくして、神社にも興味をもつようになり、神社や寺を巡ることを目的に旅に行くようになった。

ある日、神戸にある神社を訪ねたときのこと。前々から気になっていた御朱印をいただしてみた。そのくずし字の美しさ、すばらしさに、ぼくは心ひかれた。これ以降、ぼくはどこに行くにも御朱印帳を持ち歩くようになり、神社や寺を訪ね歩いては、御朱印をいただくようになった。

六年生のゴールデンウィーク。僕は、一人で電車に乗って、寺巡りをした。その内の一つのお寺でお参りをしていると、おじいさんのお坊さんが出てきた。そして、ぼくに

「そこにある砂をなでて、その手で自分の悪いところをなでるとよくなるよ。」

と言った。ぼくは、少し考えて、自分の耳をなでた。お坊さんに、耳が悪いのかきかれたので、ぼくは、少し考えて、自分の耳をなでた。お坊さんに、耳が悪いのかきかれたので、ぼくは「よくなることはないのです。これから悪くなるかもしれません。だから、これ以上悪く



●桜内義雄賞受賞者

母を語る

東京都 八木 道夫

只今司会者から紹介されました八木道夫です。今日この場に立ち皆様は母のこの自分のことを伝えることができ、とても光栄と思います。その前に全国ろう学校の生徒さんが毎日毎日の学習成果を発表する姿をみて本当にうれしく又驚きます。私がろう

らないようにお願いしているのです。」と答えた。ぼくが熱心に拝んでいる姿を見たお坊さんは、本尊と一緒に拝んでくれた。お坊さんと気が合い、拝んだ後、お茶をいただきながらいろいろな話をした。御朱印巡りをしていて、こんな出会いがあるなんて思いもしなかった。その後もいろいろな寺社を巡ったが、いつもそこにいる人たちと寺社の歴史やいわれ、御利益などについて話をしている。お坊さんと話したことがきっかけで、現地の人もっと話したいという気持ちが出てきたからだ。御朱印巡りを通じて、ぼくは寺や神社について詳しくなるだけでなく、いろいろな人と関わる楽しさを感じることができた。だから、ぼくはこれからも御朱印巡りを続けていきたいと思う。

学校で受けていた教育内容とはちがいますね。未来の子供達の姿に期待します。私の話を始めます。よろしくお願ひします。

(以下は講演で八木氏が提示した各写真への解説・説明の一部分です 事務局)

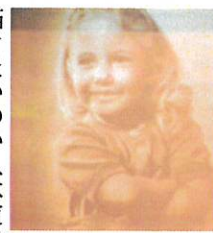
・私の母です。育ててくれたきびしい教育でした。油絵を描いた肖像画です。

・幼い頃絵が好きで毎日描いています。

・高校在学中、学校には美術部がありませんでしたが、どこでも積極的にスケッチを重ねていました。

・卒業後、弟子修行5年間

・画家への夢を捨てきれず肖像画美術学院に師事弟子入りする。その間コミュニケーションは筆談と口語で過ごす。目で見てその技術を学ぶ。



・十九歳の時、鉛筆一本(4B)で描いた作品です。初めての肖像画展での入選作です。

・独立するまでは肖像画の修業でした。肖像画はいわば生活を支えるための絵です。自分は何を与えるのがピエロの仕事です。悩みや苦しみがあったとしてもピエロは自分の気持ちを仮面に隠して人を笑わせるのです。ピエロを通して自分の人生や心を表しているのです。

・地元の小学校で毎年中学生になる6年生の卒業生に夢を持ってと講演をしています。

ご清聴、有難うございました。

年度当初の会長ご挨拶

公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会会長

参議院議員 山東 昭子



会長
山東 昭子

新しい年度を迎え、ひとことご挨拶申し上げます。

本協会は昭和六年の創立ですから、八十八年目を迎えました。今年度も益々事

業の充実を目指して努力してまいりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、昨年度の第四十一回「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、平成三十一年一月二十一日(月)に実施いたしました。公務が多忙な中を、十二年続けて秋篠宮妃殿下のご臨席とお言葉を賜りました。誠に光栄に思いますとともに、深く感謝いたしますところでございます。

全国の聾学校・聴覚特別支援学校の教育の充実発展と幼児・児童・生徒を励ますことを願って実施しております全国聾学校絵画展、全国聾学校作文コンクール、全国聾学校合奏コンクールは、それぞれ立派な成果と成績を上げることができました。また、児童生徒の基礎的な言語力の基盤づくりをねらった「読字力検定」試験への受験も、活発になってきています。

これ以外の事業としては、公益財団法人JKA競輪共益資金の補助事業であるFM補聴システムの無償貸与事業を実施しました。

このように昨年度も、協会の各事業の実施と運営に、皆様方の多大なご理解とご協力を賜りました。誠に有難うございました。今年度の各事業実施につきましても、皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●全国聾学校合奏コンクール審査結果

金賞・文部科学大臣賞

・東京都立大塚ろう学校

小学部五年 十一名

「彼方の光」

楽器編成(キーボード、ドラ、ティンパニー、スタ

・静岡県立静岡聴覚特別支援学校 中学部 八名
「雷鳴」

銀賞

・大阪府立生野聴覚支援学校 小学部 十五名
「キラマンジャロ」

銅賞

・愛知県立二宮聾学校 高等部 五名
「リベルタンゴ」

・東京都立大塚ろう学校 小学部六年 十五名
「レ・ミゼラブルメドレー」

・香川県立聾学校 中学部 六名
「もののけ姫 remix」

・筑波大学附属聴覚特別支援学校 小学部五年 十二名
「どこまでも行こう」

審査員奨励賞

・福岡県立福岡聴覚特別支援学校 中学部四名
「ジュピター」

・東京都立中央ろう学校 高等部八名
「英雄の証」

・福島県立聴覚支援学校 中学部三名
「よろこびの歌」

・筑波大学附属聴覚特別支援学校 小学部六年 十二名
「天国と地獄」

全国聾学校合奏コンクール第二次審査総評

審査委員 草間 みどり

今年度は、一次審査と二次審査で印象が違ふ学校が多くなりました。演奏自体もスマートになっただけで見事でした。

印象的な学校が数多くありました。三人など人数が少ない学校での演奏では一人一人の良さを十分發揮して大変よいハーモニーを奏でていました。

人数が多い学校では、打楽器の構成を工夫し、メロディを丁寧に、そしてフレーズ感をもって演奏しようと努力していました。打楽器とメロディーラインの音量バランス

スに注意するとさらによかった学校が複数ありました。点と線がつかないメロディーラインとリズム取りが多かった中、鈴を使ってファジーに構成されている学校がありました。楽器の特色を活かした演奏も大切な要素です。

先生方が様々な工夫をよくされていました。日々の先生方のご苦労が伝わってきます。音楽に対する情熱を先生方が児童・生徒に伝え、児童・生徒達と先生が丁寧に音楽を紡ぎ出している様子が大変印象的でした。

三名、四名、五名、六名、八名、十一名、十二名、十五名、各学校がそれぞれの事情を抱えつつ、伝統を大切に、また、新しいことにチャレンジし、芸術作品を創り出してくださいました。

ぜひ、来年度に向けての努力を絶やさず、次回の聾学校合奏コンクールに臨んでください。素晴らしい演奏が聴けることを期待しています。

全国聾学校合奏コンクール表彰式



全国聾学校合奏コンクール
表彰式
平成 31 年 2 月 27 日 (水)
東京都立大塚ろう学校

第三十回全国聾学校合奏コンクール表彰式は、平成三十一年二月二十七日(水)東京都立大塚ろう学校体育館で行われました。山東昭子会長、田中一嘉審査委員長代理の出席のもとに表彰が終わると、金賞受賞曲「彼方の光」と努力賞受賞曲「レ・ミゼラブル メドレー」のそれぞれの学年の演奏がありました。打楽器とキーボードの響き合う迫力満点の素晴らしい演奏でした。来年度も頑張ってください。

なお、今年度は合奏コンクールが第三十回を迎えたこ

とから、協会の記念事業として「記念文集」を発行する準備を進めています。なるべく早くお手元にお届けできるように努力いたします。

ハマナス募金

当協会が実施しております事業は、公益財団法人JKA競輪公益資金の補助をはじめとして、皆様方からのご寄附(ハマナス募金)により実施しています。

皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。今年度も計画事業の適正な実施に努めているところですが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110・9・134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東昭子

当協会は、平成二十九年三月三十日内閣府(内閣総理大臣)より税額控除に係る証明を受理しております。

平成三十年十月一日から平成三十一年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

(敬称略)

伏見殿下杯チャリティゴルフ実行委員会事務局、金子昌夫、姫路聴覚特別支援学校卒業生親の会白鷺会、福島

県ことばを育む会、鄭仁豪、川村美津子、春名英徳、折山精、竹田統子、倉田正雄、岡部忠信、六車郁子、堀信子、佐藤和子、山本博美、神邊洋吾、阿部きみよ、小川勝江、武田千枝子、脇坂順雄、平口洋、(株)大場組大場利秋、一般社団法人日本補聴器販売店協会、荒崎勝美、青木稔、株式会社PM・Japan、東京ホールディングス(浅井健二)、(株)テアトルアカデミー(浅井健二)、(株)宝古堂美術山田春雄、錦織重治、藤木裕子、医療法人晴生会、齋藤佐和、中村喜久子、大塚明敏、野口敦子、成田久江、斎藤捷彦、安達スミ子、藤本登、石油連盟、小澤配邦、平井清美、日高清子、金子物産金子昌夫、高田愛子、千葉いのはな会石川庄六、リオン株式会社、鶴澤支津子、(株)富士インベストメント(浅井健二)、(株)テアトルアカデミー(浅井健二)、東京ホールディングス(浅井健二)、仲田邦男、小林明、錦織重治氏を祝う会

平成三十年度

公益財団法人 JKA 競輪公益資金による

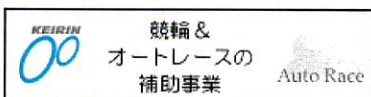
補助事業実施報告

一、事業名

平成三十年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

二、事業実施内容

F M補聴システム(リオン株式会社製)の購入・無償貸与
送信機・受信機二十四セット
全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、中学校、難聴幼児通園施設に在籍、在園する幼児・児童・生徒の家庭に貸与



トピックス

平成三十年度

聴覚障害教育振興奨励賞受賞校について

聴覚障害教育振興奨励会

事務局長 井口 昭

去る三月一日、平成三十年度の受賞校の二校が聴覚障害教育振興奨励会(会長 渡邊 研)から発表された。

① 筑波大学附属聴覚特別支援学校

研究実践報告者 教諭 岡本 三郎

◎ 研究テーマ

聴覚障害生徒の体育授業や運動部活動及び陸上競技大会における光刺激装置の活用について

研究・実践の内容

聴覚障害児童・生徒は聴覚から得られる情報に制限があるため笛や掛け声の合図だけでは大きな動きに気付かせることは難しい。

これらの障害を保障するために光刺激装置をバレーボールでのサーブプレース、陸上競技のフライングなどを光により伝えることで競技者にとって効果的であるかどうかを明らかにした研究である。

実践研究に当たっては機器の試作品の活用を他校にも協力を得たり、競技者にアンケート調査も実施しながら改善を図っている。

今後は、生徒に光刺激装置のスイッチを持たせ、ポイントとなる良い動きの時に発光させる活動やバレーボールに限らず、他の種目や体育の授業でも効果的な使用方法を検証していくという。

② 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

研究実践報告者 教諭 西野 陽子

◎ 研究テーマ

校内支援体制の構築に向けた取組
～包括的・柔軟性のある支援体制を目指して～
研究・実践の内容

近年の聴覚支援学校では身体の問題や心理的な悩みなどの他に発達障害、医療的なケアなどの必要な児童・生徒が増加している。この現状に対して学校側の対応は時間的にも、専門的にも答えられないのが現状である。

本校ではこの課題を教員が一人で悩み、抱え込まないために学校全体の支援組織を作ることにした。

この組織は担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、県から外部のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、他障害特別支援学校コーディネーターを依頼し、まずは担任への簡単なワンポイントアドバイスを受けることから始めた。

それから二年目、最初は授業参観にも抵抗感のあった担任は専門的なアドバイスを受ける場であることを体感してきた。また三年目からは特別非常勤講師制度を活用し、保護者の悩み相談をも始めた。

四年目を迎えた本年度の現状は、校内支援の体制が浸透したこと、これまでに受けたアドバイスが教員一人一人に根付いてきたこと、ケース会議より学年会への出席が増えてきたこと、幼児の対応についての意見を求められることが増えたことなどの学校体制が構築されてきた。なお、報告書には年間ケース件数、内容などの数値も報告されている。

錦織重治画伯日展審査員就任祝賀会

常務理事 小林 明

本協会の事業である「全国聾学校絵画展」の審査員である錦織重治先生が本年度より公益社団法人「日展」の審査員に就任された。

錦織先生は、全国聾学校絵画展事業が創設された平成八年度より二十三年にわたり全国の聴覚障害幼児児童生徒の表現力の向上、情操、創造力の陶冶にご指導ご支援をいただいていたところである。

山東会長に発起人代表をお務めいただき平成三十一年一月二十一日午後五時より参議院議員会館食堂で錦織先

生ご夫妻を囲みお祝いと長年のご貢献感謝する集いが行われた。

会は、木内常務理事の進行で、宮野常務理事の開会の言葉に始まり、山東会長の祝辞と記念品贈呈、花束贈呈と続き錦織先生のご挨拶、今井絵理子理事のご発声で乾杯を経て祝宴に入った。

祝宴の中で、松本全国聾学校長会会長、矢澤絵画展審査委員長にお祝いのスピーチを頂き、在アメリカの日本人学校ラสบガス学園理事長（元協会事務局長）のお祝いのメッセージ披露と続き、仲田常務理事の開会の挨拶で盛会裡に閉会した。森副会長には引き出物を、櫻井専務理事、小川評議員、小俣評議員には多大のご芳志をいただき厚く御礼申し上げる次第である。

「聴覚障害乳幼児教育相談研究委員会」報告

常務理事 小林 明（研究会事務局長）

平成二十八年六月に本協会の研究部門として発足させた「聴覚障害乳幼児教育相談研究委員会」は、所期の目的を達成し、この度研究成果報告書を刊行した。

同研究会発足前年の平成二十七年の全国聾学校退職校長会総会で、北陸地区の理事から、聴覚障害乳幼児を対象とした教育相談指導の窮状は放置できない状態にある。新生児聴覚スクリーニング普及に伴い、乳幼児教育相談の対象児が増加したことにより、指導現場が、指導担当者や必要経費の確保に難渋しており、退職校長会としてもそれを課題視する必要があるとの提言であった。

本邦の聴覚障害教育は、現在、幼稚園三歳から大学院までが制度化されているが、早期教育の重要さは、関係者等しく認識しているにも拘わらず、乳幼児段階の相談指導は、未制度のままである。幼稚園のある全国の聾学校全てで教育相談指導が行われている実態がありながら、制度の裏付けが無い中担当者のボランティア的な貢献で、約半世紀が過ぎてきたのが実情である。

そんな中、単に、「人が足りない」「教材費が足りない」とと散発的に行政機関に訴えても説得力に欠ける。制度化を目指すならば、まずは聴覚障害乳幼児の教育相談について、全国的な詳細な実態調査を行い、その結果分析考

察を踏まえて課題を把握し、その在り方を考察研究する必要があるということ、諸般の事情から、本協会に研究会を立ち上げたものである。

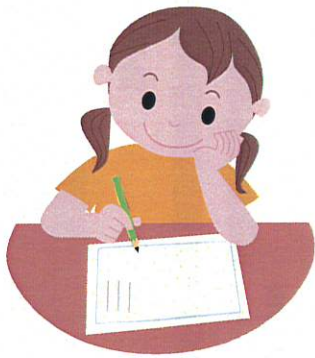
本協会の役員の中から主旨にご賛同いただいた学識経験者と校長会から推薦を受けた実践豊富な先生方に夫々企画研究委員と調査研究委員にご就任いただき研究を進めてきたところである。

初年度には、文部科学省公募の委託事業「特別支援教育に関する実践研究充実事業」に、二年目である本年度は、同公募テーマが「特別支援教育に関する教職員の資質向上事業」であり、「聴覚障害児の早期教育に関する理解を進め、担当者の専門性の向上を図ること」を主題として夫々採択され、多額の助成を受け事業を完遂することができたところである。

二年間の研究成果については大方の理解啓発も意図して、本協会事務局のご協力を得て協会ホームページに掲載されるので、ぜひ閲覧していただければ幸いである。本研究事業推進に当たっては、全国聾学校長会（松本弘会長）はじめ多くの方々のご理解ご指導を頂いた。特に主旨にご賛同頂き多額の資金を寄付してくださった小川評議員、木内常務理事に深謝する次第である。

作文コンクール作品集の誤りについて

四十三頁 群馬校 大澤未来さんは「小学部部門」六十三頁 水戸校 北川慶悟さんは「小学部部門」八十九頁 応募者一覧の畑澤歩斗さんの学校名は「青森県立八戸聾学校」です。
お詫びして訂正いたします。



編集後記

「2020東京五輪まであと〇〇日」とか、「平成最後の△△」などと言うフレーズが目立っています。時代は確実に次に進もうとしています。会報「響き」七十五号をお届けします。主に平成三十年度後半の事業についてお伝えします。

第四十一回を数えた「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」を、一月二十一日に開催いたしました。一月の開催とあって寒さや降雪の心配がありました。好天に恵まれ主催者としては幸いでした。また、今年度は初めて秋篠宮妃殿下と表彰された方々、そのご家族とが一緒に集合写真撮影いたしました。良い記念としてください。

全国聾学校合奏コンクール金賞は今年も連続して都立大塚ろう学校が受賞し、表彰式は平成三十一年二月二十七日に行いました。今回も山東昭子協会会長が受賞校の東京都立大塚ろう学校での表彰式に出席し、文部科学大臣賞を授与いたしました。また、前回に引き続き田中一嘉先生にも表彰式にご出席いただき、講評と努力賞の授与をしていただきました。有難うございました。また、この合奏コンクールは今年度で丁度第三十回の節目を迎えました。その記念事業として記念誌の発行の準備を進めています。ご期待ください。

2019年度の協会の事業においては、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」をはじめとして例年通りの事業を実施する予定です。全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力ご支援を賜りますよう、事務局一同、心よりお願い申し上げます。

また、いつもお願いで恐縮ですが、当協会の事業運営の支えでありますハマナス募金にも、多大なご協力をいただけますよう重ねてお願い申し上げます。